

PTA 活動、引き続き変わっていきます！

～子どもたちのための PTA、それをより明確に～

会員のみなさん、PTA 活動、変わっています。実感されているでしょうか？

全国的に見て、PTA 活動にはネガティブなイメージがあると思います。まずは、「なんとなく大変だなあ」という気持ちがありますよね。それから、「何のためにやっているのかよくわからない」という気持ちもある。

この二つのネガティブな気持ちを、なんとかプラスの楽しいものに変えていけないか？

そうすれば、子どもたちのため、プラスの何かをしてあげられる。それから、私たち大人もそれを通して楽しみ、また成長もしていくのではないか？「そんな PTA だったら、自分も何かやってみたいな」、そんな風に感じる方もいるのではないでしょうか。

昨年、長原小 PTA は、「大阪市 PTA 連絡協議会」「平野区 PTA 連絡協議会」を退会し、『単位 PTA』として新たなスタートを切りました。

もしかするとこれは、あまりピンと来ない変化だったかもしれません。ただこれは、「子どもたちにとってより身近な PTA 活動をしたい！」という私たちの想いのためには大きな決断でした。従来は、大人のためのソフトボール大会や講習会などへの動員がありましたので、「子どもたちのための PTA」という色合いをより強く打ち出せるようになりました。

また昨年から、広報委員、保健体育委員などの各委員会をなくし、学年委員のみとしています。これは、固定した役割を極力減らし行事ごとにその都度ボランティアの方を募集することで、「出来る人が・出来るときに」という方法に転換するためのものです。みなさんが「無理なく→楽しく」活動できるようにという願いを込めました。「一日中の参加は難しいけど、そんなに短くていいのなら・・・」「大変そうだったけど、そんなに細かいことでいいのなら自分にもできそうな気がしてきた」、こんな風に思ってもらえば、気軽に参加できると思うんです。

ただ、このボランティア制度をとるということは、お手伝いがなければイベントの規模が小さくなったりイベント自体がなくなってしまうという可能性もあるということです。でもそんなときには、「みんなが子どもたちのために手伝いたくなるような楽しい行事ってなんだろう？」と、もう一度みんなで考えていくべきだと思います。「例年のことだから」という前例踏襲で無理に行事を実施することでは、大切な何かを失ってしまうような気がします。本当にこの活動が「子どもたちのためになっているのか？」、常にそこに立ち返って考えていくべきだと思います。

夏のイベント「サマフェス」や「ロケット教室」などは、昨年みなさんに大好評でした。このように、なくなってしまうにはとても惜しいものもたくさんありますので、みなさんの力を貸してもらい、「楽しみながら、誰かの役に立つ」という感覚をみんなで味わえたら素敵です。

「楽しむことが結果として何かの役に立つ」ということは、「大人が（自分から）楽しんで学校に関わっていけば、学校を“つくる”ことができる」という長原小の理念にも通ずると思います。「楽しむ」というところがポイントです。

子どもたちの成長を、私たち大人が楽しみながら見守っていければ嬉しいですよね。子育てって楽しんでやってもいいと思うんですが、そのために PTA 活動が何かの意味を持てれば最高です。

そして PTA 活動を通し、私たちサポーターと学校教職員のみなさんが「つながる」ことを大きな目標として、今年度の PTA 活動を進めていきたいと思います。

私たちサポーターと学校は、子どもたちの成長を願って「同じ船」に乗っているもの同士だと思います。PTA 活動をともに楽しむことを通して、サポーターと学校が同じ目的を持つものとして「つながる」ことができれば、子どもたちにとって大きなプラスになるはずです。もし子どもに困ったことが起きたとしても、お互いが同じ目的を持っているのなら、家庭と学校とが同じ方向を向き「対話」していくことだってできると思います。家庭・学校の「橋渡し」、それが PTA 活動の最も大きな目的になるのかもしれません（今年度は役員に、学校教職員の方も加わっています）。

主体的にものごとへ取り組むと楽しさが生まれてきます。ちょっとワクワクしてきませんか？

会長 高田 亜希・役員

校長 市場 達朗・教職員